

修正履歴

V3.6.0 (9 Mar., '21)

- 1) インタフェースに使う Arduino UNO ですが、PC ヘデーターを送る RS232C チップが CH340 を使うタイプと ATmega16U2 タイプがあり、16U2 では、データーが正しく送れなかったので修正しました。TNX TO JR1CHU

V3.5.0 (20 Feb., '21)

- 1) 不明瞭送信が有ったときのスペース位置が正しく反映されなかったので、判定プログラムを書き直しました。
- 2) 不明瞭減点は 2 文字に及ぶことから減点 2 としました。
- 3) レポートの保存先を、問題文の保存先フォルダーになるようにしました。

V3.4.1 (16 Feb., '21)

- 1) グラフィック波形の色が少し変だったので、黄色に統一しました。
- 2) スペース位置判定にまだ少し不具合が有ったので修正しました。

V3.4.0 (7 Feb., '21)

- 1) 合否判定を表示しました。そして、残念な結果だった場合は、各符号のドット比較と、バラツキが大きい偏差値の個所をピックアップして、電鍵操作へのアドバイスを加えました。
誤字・脱字などは、間違い個所を見れば分かりますから書いていません。
- 2) 1:3:7 ドットでリズム良く打てていない場合の減点数を若干見直しました。
- 3) スペース位置判定に若干ずれが有ったので修正しました。

V3.3.9 (24 Jan., '21)

- 1) 受験者が発信した波形は総て記録していますので、特にチェックしたい個所の波形を拡大して見ることができるようになりました。 解読表示 (問題文表示の下枠内です) されている文字列の中で気になる文字の手前をクリックしてみてください。その文字の波形から後ろ数文字分の波形が表示されます。これは、別の個所でも何度でも見るができます。 単点・長点・スペース間隔などの長さが正しく打てていたかをよく見て、今後に生かしてください。元の全体波形図に戻したいときは、解読表示されている文字列最後の文字の後ろの適当な個所をクリックすれば元の波形表示に戻せます。
- 2) 正しい間隔 (1:3:7) でスペースが打たれた場合は関係ありませんが、多少リズムの悪い符号を打たれた場合の計算式を見直しました。
- 3) マイクロソフトのインストーラを使い始めました。 Setup1.msi ファイルをクリックすれば、インストールが始まります。削除したいときは、一般のソフト削除と同じように設定のアプリ一覧からアンインストールします。

V3.3.8 (22 Jan., '21)

- 1) 誤字の不具合を修正しました。
誤字の前にスペースがあったときに、誤字の文字が赤ではなくて黒色表示でしたので修正しました。
- 2) その他、細かな修正

V3.3.7 (19 Jan., '21)

- 1) 不明瞭減点を追加しました。
CW 送信において、符号不明瞭を 1 文字 1 点減点の項目があります。実際の CW 符号送信において聞き取りにくい符号を発信するというのは 2 つあると考えられます。

- ① AMATEUR という単語を打っているときに UR を続けてしまった様とき、U は誤字として判定される上に当然 R の符号が抜け落ちているから脱字と判断され 6 点の減点となります。

文字間がほんの少し詰まっただけで、6 点の減点は大きすぎます。これは二文字の不明瞭文字として 2 点減点としました。なお、符号を解析しても、UR の連続文字では無かったら、当然、6 点減点となります。

- ② FREQUENCY の F をリズムよく打てなくて、IN の様に判断されたとします。これも、四角四面に判定すると、I が誤字判定され、N が冗字と判定されるから 6 点の減点となってしまいますが、これも厳しすぎます。打たれた符号を解析すると、確かに F を打とうとしているのが明らかな場合は 1 文字の不明瞭として 1 点減点としました。なお、I と N の間にスペースが入るほど間隔があいている様ときは、6 点減点扱いとしています。

2) その他、訂正符号処理プログラムを見直して書き換えました。

V3.3.6 (15 Dec., '20)

- 1) 冗字の後のスペースチェックを修正しました。

発信された文字列の最後に冗字が有って、その次がスペースであったときに正しく処理されていなかったのを修正しました。

- 2) 発信された符号があらかじめ想定された符号長よりも長いとき、“*”が表示されなかったのを修正しました。

V3.3.5(11 Dec., '20)

- 1) 偏差値減点を少し緩和しました。

文字間と単語間の偏差値はどうしても大きくなってしまいますので、5 点を引いた数の半分の減点数としました。

- 2) レポートボタンを無くしました。

レポートボタンと、解読途中の処理の表示をしないようにしました。実際はまだ裏で動いていますが、画面上には出さないようにしました。必要に応じて、またすぐに元に戻せます。

- 3) 表示文字を BOLD に換えました。

見やすい様にフォントを総て BOLD に換えました。その他、減点などの個所を見やすい様にグループで括りました。

V3.3.4(29 Nov., '20)

- 1) 単語を前後逆転して発信された場合正しく判定できませんでした。8 文字パターンですから 4~5 文字の間違いなら何とか正しく処理できたようです。10 文字パターンにすれば、もう少し余裕があるかもしれませんが、パターン数がとてつもなく大きくなりますので、しばらくこの 8 文字パターンで様子を見ます。

- 2) その他細かな修正

V3.3.3 (27 Nov., '20)

- 1) 解読不可能な符号を受信した場合は、“*”または“*”マークで表示しています。この符号の場合は、1 文字を試験問題文字とは違う文字を発信した場合のほかに、決められた CW 符号以外の信号を間違えて発信した場合、あるいは、符号間隔を正しく空けずに二文字を連続した符号で発信してし

まった場合があるし、その二文字連続符号も間違えているなどもあります。

符号間を空けず二文字を連続してしまった場合は、1文字目を誤字・2文字目を脱字と判定しました。すなわち6点減点です。少し厳しすぎるかもしれませんが、これは、あくまで試験ですし、きれいな符号を打つための訓練でもありますから、6点減点とさせていただきます。単なる1文字の間違いならば、当然、誤字の3点減点のみとしています。

2) 発信文字の最後が誤字の時、未送信文字数に誤差が出ていたので修正。